

第1章 計画策定の目的

第1節 計画策定に至る経緯とその目的

東田川文化記念館は平成8年山形県指定有形文化財「旧東田川郡役所及び郡会議事堂」を公開するとともに地域の芸術文化・生涯学習の普及に資する事業を行うため開館した。開館に先立ち、平成6年に「旧東田川郡役所等活用計画」を策定し、同計画に沿って館内を整備、開館後も計画に基づき文化財(建造物)の公開とともに地域の歴史や文化を紹介する施設として、また各種講座や展示会・コンサートの開催など文化活動の場として地域の生涯学習の一端を担ってきた。

当時の計画の基本方針として、施設機能の複合化による魅力の増進、展示機能の充実により集客、地域文化の演出で個性化を図る、情報伝達と共に五感で実感する環境にする、を掲げ事業を展開してきたが、策定から約25年経過し、策定当時から**ライフスタイルの多様化やインターネットの普及による情報の拡散などにより記念館を取り巻く環境は大きく変化している**。また、ここ数年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用者数も横ばいから低下の傾向にある。

平成27年に隣接地に藤島歴史公園「Hisu花」が整備され、公園と一体的な活用を図ることにより地域づくりや観光の拠点としての活用が期待されている。また令和5年3月には県指定有形文化財の2棟の建造物の他、旧東田川電気事業組合倉庫、土蔵を含めた敷地全体が国の史跡に指定された。全国で唯一、建設当時の位置関係のまま現存している点、明治時代の郡制や事業の様子を伝える貴重な史跡として高く評価されたものである。本市の国指定史跡は他に旧致道館、松ヶ岡開墾場、小国城跡があり、4件目の指定となる。(市の史跡として他の3件の史跡と連携して市内外へ情報を発信していく必要がある。)

当館のこれからの活用について今一度文化財としての歴史的価値の理解を深め、芸術文化活動や生涯学習の拠点として地域住民が効果的に活用していくことができるよう、既存の活用計画を見直し、新たに利活用・運営体制等の基本方針を示すことを目的とする。

なお、本計画は教育委員会社会教育課で令和8年度に策定予定の「史跡旧東田川郡役所及び郡会議事堂保存活用計画」の前段に位置づけ、その中の「活用部門」に取り込み、令和9年度以降は保存活用計画として事業を進めていく。

第2節 計画策定に向けてのこれまでの経緯

「鶴岡市地域まちづくり未来事業」において平成30年度から「東田川文化記念館リノベーション事業」として取り組んできた。内容は以下のとおりである。

○施設・設備環境整備

- ・展示照明設備の改修(高演色LED照明の採用) 平成30年度～令和元年度
- ・冷房設備改修・明治ホールへ冷房設置 令和2年度

○展示の模様替え(旧東田川郡役所)

- ・郡制時代に即した展示模様替え 令和元年度

※展示検討委員会を設置し実施

○東田川文化記念館活用サークル(郷土研究サークル)の支援 令和2年度～

○東田川文化記念館利活用ワークショップ(WS)の開催(市民意見の反映) 全5回

令和3年度～令和4年度

第3節 利活用計画策定委員会の設置と審議経過

(1) 利活用計画策定検討委員会の設置

計画策定にあたり検討委員会を設置し、会議を行っている。

表 1-1 東田川文化記念館利活用計画策定検討委員会 委員名簿

No.	氏名	所属・役職	分野
1	温井 亨	東北公益文科大学教授	専門家 (WS ファシリテーター)
2	穂積 恒雄	東田川記念館郷土研究サークル会長	記念館利用者
3	齋藤 昭彦	藤島地区自治振興会会長	地域関係者 (WS 参加者)
4	浅賀 千春	公益財団法人藤島文化スポーツ事業団 理事長	指定管理受託・ 芸術文化関係者 (WS 参加者)
5	中澤 牧子	藤島少年少女合唱団指導者	芸術文化関係者
6	本間 豊	公益財団法人致道博物館学芸部長	有識者
7	齋藤 隆	藤島歴史公園 Hisu 花ワークショップ メンバー	歴史公園関係者 (WS 参加者)
8	武田 壮一	未来輝く藤島づくり会議「藤島ルネッ サンス」メンバー (公募枠)	地域関係者

事務局

No.	氏名	所属・役職
1	小林 雅人	藤島庁舎総務企画課長
2	日向 理恵	藤島庁舎総務企画課総務企画専門員
3	牧 一希	藤島庁舎総務企画課主事
4	小林 朋華	藤島庁舎総務企画課主事
5	長谷川 富久	藤島庁舎産業建設課産業建設専門員
6	五十嵐 雄	鶴岡市教育委員会社会教育課文化財主幹
7	大場 裕太	鶴岡市教育委員会社会教育課専門員
8	遠田 良弘	東田川文化記念館長
9	渡部 隆志	公益財団法人藤島文化スポーツ事業団事務局長

(2) 利活用計画策定検討委員会の審議経過

利活用計画策定検討委員会での協議概要を以下に示す。

表 1-2 東田川文化記念館利活用計画 策定の経過

委員会	開催年月日	概要
第1回利活用計画策定委員会	令和5年7月12日	・委員会の目的とワークショップ意見の把握、今後の方向性
第2回利活用計画策定委員会	令和5年8月30日	・計画の構成と利活用の基本方針・方向性・方法について
第3回利活用計画策定委員会	令和5年10月4日	・利活用の方向性・方法、活用のための整備について、運営体制の整備について
第4回利活用計画策定委員会	令和5年11月21日	・利活用の実施計画と経過観察について
第5回利活用計画策定委員会	令和6年2月9日	・利活用計画策定に向けた最終協議
パブリックコメント	令和6年2月21日～ 3月13日	
東田川文化記念館利活用計画策定	令和6年3月31日	

第4節 上位・関連計画との関係

東田川文化記念館の利活用に関わる鶴岡市の上位計画、主な関連計画は以下のとおりである。

表1-3 上位・関連計画

名称	刊行年月	編集・刊行	計画期間
『第2次鶴岡市総合計画』	平成31年3月	鶴岡市	平成31年度～令和10年度
鶴岡市藤島地域振興計画	平成31年3月	鶴岡市藤島庁舎	平成31年度～令和5年度
鶴岡市地域まちづくり 未来事業計画	平成31年3月策定 令和4年3月変更	鶴岡市	令和4年度から概ね3年程度 (年度ごとの見直し)

【上位・関連計画】

『第2次鶴岡市総合計画』

『第2次鶴岡市総合計画』は、2019(平成31)年度から2028(令和10)年度までの10年間を計画期間とし、目指す都市像として「ほんとうの豊かさを追求するみんなが暮らしやすい創造と伝統のまち 鶴岡」と設定している。また、キャッチフレーズとして「毎日、おいしい。ここで、暮らしたい」を掲げている。

「東田川文化記念館利活用計画」は総合計画の施策の大綱のひとつである「地域の振興」を実現するための計画のひとつに位置づけられる。このうち東田川文化記念館に関連するのは以下の内容である。

地域の振興

各地域固有の特性や地域資源を最大限に生かし、地域住民が誇りと愛着を持ち、安心して暮らし続けることができる地域づくりを行います

■藤島地域

- ア 豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現
- イ 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進
- ウ 暮らしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築

■イ 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進

○施策の方向

藤島地域を象徴する「ふじ」と獅子踊りなどの「伝統芸能」は、今後も重要なまちづくりの資源と捉え、地域に活力を生み、住民が誇りと愛着を持てる地域づくりにつなげていくとともに、地域内外にその魅力を発信し、交流人口の拡大と賑わい創出を図ります。

また、ふじのまちのシンボル施設として整備した藤島歴史公園「Hisu花(ヒスカ)」と隣接する東田川文化記念館を活用した地域づくりの推進やそれに関わるボランティアの育成などに取り組みます。地域の資源や特性を活かした取組を一層発展させながら、多様な人々の関わりによる歴史と文化、交流が彩るまちづくりを推進します。

○主な施策

- ①東田川文化記念館を含む藤島歴史公園「Hisu花(ヒスカ)」から始まる地域づくりとして、市民が公園づくりや活用を検討できる場を創出します。また、オフシーズンのイルミネーションの点灯や住民参加の花壇整備などを行い魅力発信に努めます。

『鶴岡市藤島地域振興計画』

『鶴岡市藤島地域振興計画』は、2019（平成31）年度から2023（令和5）年度までの5年間を計画期間とし、基本方針として「豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現」、「歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進」、「くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築」を設定している。

「東田川文化記念館利活用計画」は基本方針2「歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進」の主な施策に位置づけられる。このうち東田川文化記念館に関連するのは以下の内容である。

基本方針2「歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進」

基本方針2－(1) 藤島歴史公園「Hisu花」を活用した藤島地域の魅力発信

東田川文化記念館を含む藤島歴史公園「Hisu花」から始まる地域づくりとして、市民が公園づくりや活用を検討できる場を創出します。

又、オフシーズンのイルミネーションの点灯や住民参加の花壇整備などを行い魅力発信に努めます。

○主な施策

④東田川文化記念館の魅力再発見と活用

東田川文化記念館の歴史的価値の理解を深めるため、施設内の展示の見直しやリニューアルを検討するとともに、芸術文化活動の拠点として市民が活用しやすい施設となるよう整備を行います。また、地域住民が地域のシンボルとして誇りと連帯感を醸成するイベントなどを開催し、東田川文化記念館の魅力を再発見できる取組を進めます。

『鶴岡市地域まちづくり未来事業計画』

『鶴岡市地域まちづくり未来事業計画』は、2022（令和4）年度から概ね3年程度とし、年度毎に見直しを行っている。策定の趣旨として「地域まちづくり未来基金」の設置目的である「地域社会・コミュニティの振興及び均衡ある発展」を図るため、「人口減少に立ち向かう、真に地域振興に資する」事業を地域まちづくり未来事業として実施している。

「東田川文化記念館利活用計画」は『第2次鶴岡市総合計画』及び『鶴岡市藤島地域振興計画』において、地域振興の方針を実現するためのより具体的な施策として位置づけられる。このうち東田川文化記念館に関連するのは以下の内容である。

2 地域振興の方針と施策の方向について

(2)藤島地域

○地域の基本方針

藤島地域は、多くの農業関係機関・団体などが集積し、先進的な農業に取り組む意欲的な農家が多く、特に稲作においては、庄内地方の農業の中心的役割を担ってきた地域です。このような地域特性を生かしながら、今後も重要な食糧生産地の一翼を担い、また、安全で良質な「人と環境にやさしい農業」を実践する地域であることを強みに、農業を核とした地域づくりを推進します。

これまで築き上げてきた豊かな田園文化を継承しつつ、稲作に新たな園芸作物などを取り入れた複合的農業経営への転換を図り、農家の所得向上をめざした取組を行います。

藤島地域がこれまでまちづくりに活用してきた「ふじ」や伝統芸能である「獅子踊り」など、地域が育んできた貴重な歴史と文化を次世代にしっかりと継承していく取組を進めます。また、藤島歴史公園「Hisu 花(ヒスカ)」を新たな資源として活用し、市内外の交流の拡大を図ります。

○施策の方向

イ 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進

藤島地域を象徴する「ふじ」と獅子踊りなどの「伝統芸能」は、今後も重要なまちづくりの資源と捉え、地域に活力を生み、住民が誇りと愛着を持てる地域づくりにつなげていくとともに、地域内外にその魅力を発信し、交流人口の拡大と賑わい創出を図ります。また、ふじのまちのシンボル施設として整備した藤島歴史公園「Hisu 花」と隣接する東田川文化記念館を活用した地域づくりの推進やそれに関わるボランティアの育成などに取り組みます。地域の資源や特性を生かした取組を一層発展させながら、多様な人々の関わりによる歴史と文化、交流が彩るまちづくりを推進します。

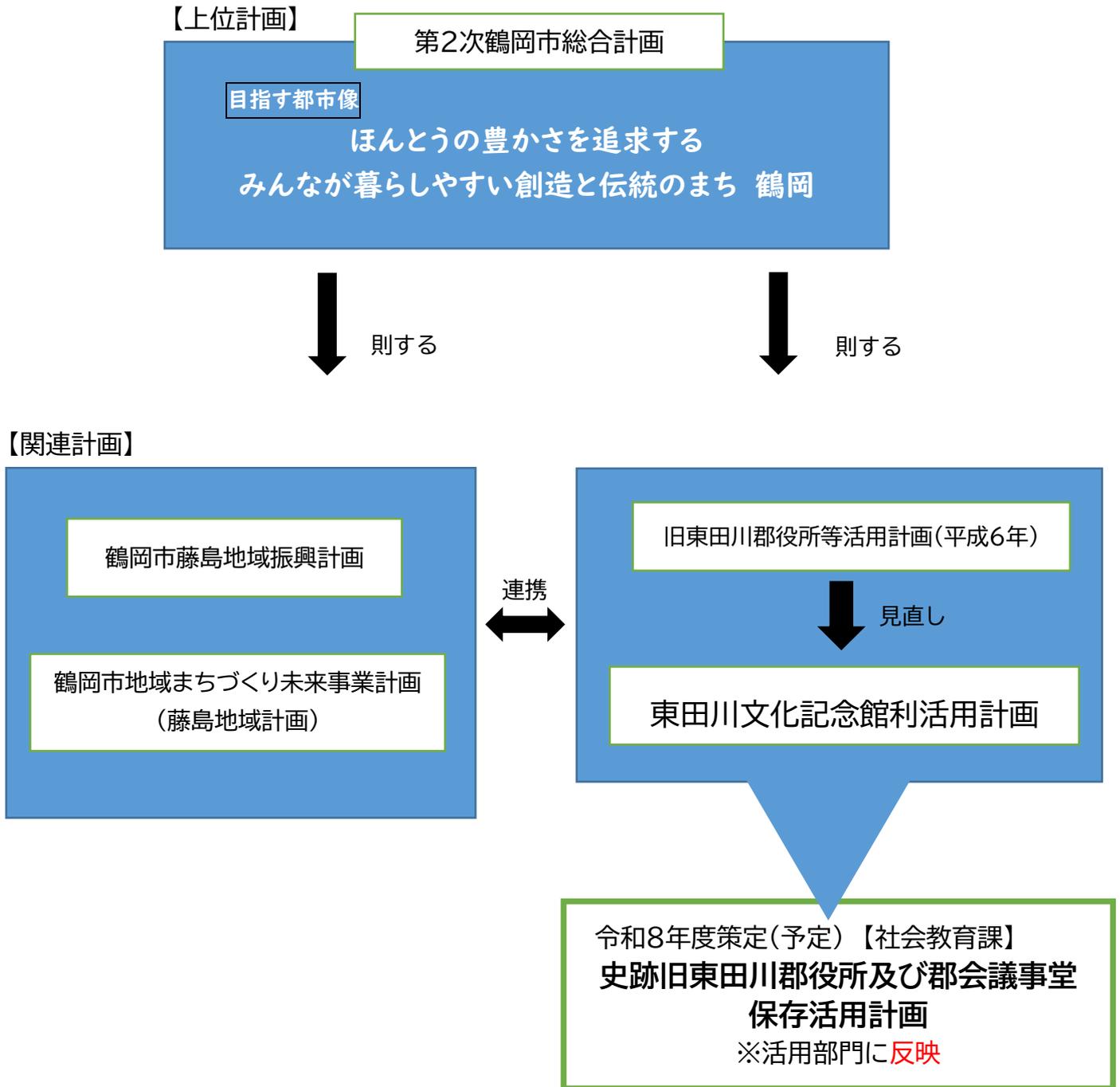


図 1 東田川文化記念館利活用計画の位置づけ

第2章 東田川文化記念館の概要

第1節 東田川文化記念館の設立及び経過

東田川記念館内の建造物である「旧東田川郡役所及び旧郡会議事堂」は昭和63年4月12日に山形県有形文化財に指定された。その後、保存・活用を図るために根本的な修理が必要となり、平成元年度から平成7年度にかけて解体保存修理工事が行われた。

翌年平成8年7月、「旧東田川郡役所及び郡会議事堂」の保存を図りながらこれを活用するため、藤島地域における芸術文化活動及び生涯学習推進の拠点として「東田川文化記念館」が開館した。4棟の建造物のうち、旧郡役所は展示室、旧郡会議事堂は1階が旧藤島町立図書館（現：鶴岡市立図書館藤島分館）、2階がコンサートや講演会ができるコンベンションルーム、旧電気事業組合倉庫は1階が事務室と展示室、2階を展示室、土蔵は収蔵庫として活用している。

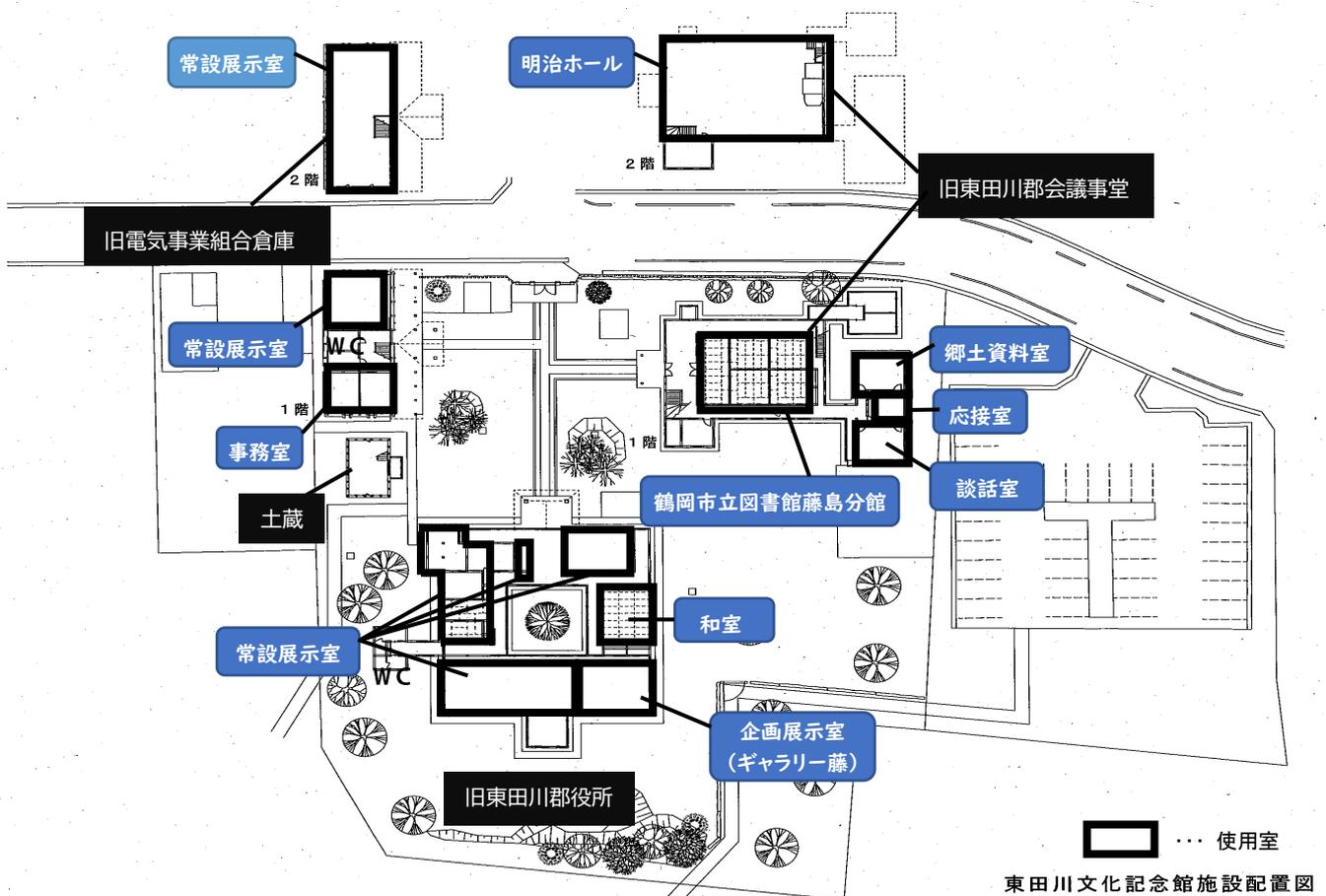
平成23年度までは市(旧藤島町)直営で運営していたが平成24年度から指定管理者制度により、公益財団法人藤島文化スポーツ事業団に委託している。

令和5年3月20日には旧東田川電気事業組合倉庫、土蔵を含めた敷地全体が国史跡に指定された。

第2節 東田川文化記念館設置の目的

国史跡及び山形県指定有形文化財「旧東田川郡役所及び郡会議事堂」を保存し、周辺の施設を含め公開及び活用することにより、文化及び生涯学習の振興を図るため、東田川文化記念館を設置する。

(鶴岡市東田川文化記念館設置及び管理条例)



第3節 運営の基本方針と事業内容

当該施設を貴重な文化財として適切に管理、保存するとともに、施設の活用を通じ、地域における芸術文化活動及び生涯学習推進の中核的な施設として運営することを基本方針として掲げている。

事業内容として

(1) 文化財の保存活用

- ・国史跡及び県指定有形文化財「旧東田川郡役所及び郡会議事堂」並びに施設で収蔵する指定文化財を適切に保存する。

(2) 芸術文化の普及・振興事業

- ・明治ホールコンサートを開催し、音楽鑑賞の機会を提供する。
- ・明治ホールを活用したコンサートなど芸術文化活動を支援する。
- ・展示施設を活用し、企画展示及び自主展示活動を推進する。

(3) 生涯学習の普及・振興事業

- ・地域住民を対象に地域に関する講座・講演会等を開催する。
- ・児童生徒を対象とした事業を実施する。

(4) 展示・公開事業

- ・藤島地域の歴史・文化に関する資料を展示し、これを公開する。

(5) 留意事項

- ・上記の具体的な実施内容については、教育委員会と別途協議し決定する。
- ・事業の実施に際し、各種助成金等を活用することができる。

(鶴岡市東田川文化記念館管理運営基準)

(1) 文化財の保存活用

- ・収蔵指定文化財の保存と展示

県指定有形文化財

【考古資料】

硬玉類

独木舟

市指定有形文化財

【考古資料】

舍利塔

大甕

緑釉劃花文大盤破片



独木舟の展示

(2) 芸術文化の普及・振興事業

- ・明治ホールコンサートの開催
- ・企画展示・自主展示活動の推進



明治ホールコンサート

(3) 生涯学習の普及・振興事業

- ・地域連携講座
- ・おもしろ講座(子ども・成人対象)
- ・大人の大学(成人対象)



地域連携講座



藤島少年少女合唱団



子どもの土曜美

(4) 展示・公開事業

- ・藤島地域の歴史／文化に関する資料の展示・公開



常設展示室(旧郡役所)

第3章 東田川文化記念館の現状と課題

利活用計画の策定のため、令和3年度・4年度に藤島地域の方々を中心としたワークショップを計5回開催した。テーマを「地域の方が足を運びたくするような施設を目指して」とし、有識者の講義を聴講しながら、記念館の現状と課題を浮き彫りにし、今後の活用について広くアイデアを集める意見交換を行った。(ワークショップの実施日、内容については別紙)

ワークショップで出された主な意見の中で、利用者として感じる記念館の現状と課題を、展示、情報発信、案内表示、休憩スペース、藤島歴史公園「Hisu花」、連携事業の6つの分野ごとにまとめたものが表3-1である。

表3-1 ワークショップ(令和3・4年度)で出された現状と課題(抜粋)

分野	現状と課題
展示	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の目玉や見どころ、テーマの設定を明確にする ・展示の内容を理解してもらいより分かりやすい説明、 ・展示方法の工夫が必要 ・展観順路を明確にし導線を表した方がよい ・明治時代のことならここが一番と感じさせたい ・近隣の水田試験場との関係性を展示した方がよい ・展示内容の発信が必要(何を展示しているのか) ・郡役所/電気事業組合の展示説明の工夫と発信が必要 ・展示を伝えるターゲットを想定する
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信が弱い ・記念館の魅力・価値をどのような手段で伝えるのが有効か ・入館者増となるような情報発信、集客方法の工夫が必要 ・ターゲットを誰に向けて発信した方がよいか
案内表示	<ul style="list-style-type: none"> ・国道に「Hisu花」案内看板がない ・歴史公園内に鉄塔が残っている理由が明示されていない ・歴史公園内ではどこから記念館へ入れるのか分からない ・歴史公園内では記念館で行われているイベントが分からない
休憩スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェなどの休憩スペースがない ・憩いの場として活用するにはどうしたらよいか ・ベンチが少ない ・旧東田川郡役所の周りを散策しにくい
藤島歴史公園 「Hisu花」	<ul style="list-style-type: none"> ・大堰に水が流れていない ・池の周囲が危険 ・藤の景観が平面的で高さがない ・藤の開花時期が終わると花がない ・園路が決まっっていて芝に入りにくい ・防除シートに落ち葉や雑草が生えている ・草が伸び放題になっている ・Hisu花ゲートがない ・築山が利用されていない ・公園なのに木陰がない
連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史公園との連携活用 ・女性を集客するための連携事業が必要 ・記念館～歴史公園の水の流れを人の流れにつなげる ・ターゲットを絞った連携事業 ・若い人を呼び込むための連携事業



写真:ワークショップの様子

ワークショップにおける地域住民・関係者の意見をふまえ、平成6年に策定した活用計画の「基本方針」をベースに新たに「利活用の基本方針」として提示し、それらを着実に進めていくための管理・運営等の体制構築の方針も示すものとする。

【参考】《平成6年度策定「旧東田川郡役所等活用計画」 基本方針》

- ① 施設機能の複合化による魅力の発信
- ② 展示機能の充実
- ③ 地域文化の演出で個性化を図る
- ④ 情報伝達と共に五感で実感する環境にする

表3-2 【参考】東田川文化記念館活用計画策定委員会(令和5年度)で出された現状と課題(抜粋)

分野	現状と課題
展示・歴史学習・ 資料収集	<ul style="list-style-type: none"> ・展示室(旧東田川電気事業組合倉庫2階)への階段が急で高齢者が登れないため改修の検討 ・郷土研究サークルの研究をもっと周知するため発表への協力が必要 ・資料の収集の必要性、藤島地域のみならず旧東田川郡内に声がけする必要がある ・資料を整理、維持管理してまとめて伝えていく専門的知識のある学芸員が不在 ・歴史的価値を明らかにし市民の理解促進のため専門家、研究者とのつながりを深めていく必要がある
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者からの情報発信のため「Wi-Fi環境整備」が必要
案内表示	<ul style="list-style-type: none"> ・観光への活用のため記念館への道路案内看板、サイン整備が必要
休憩・活用 スペース 他	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェだけでなく色々な活動の共有できるスペースがあった方がよい ・旧郡会議事堂は1階が図書館、2階が明治ホール・演奏会なので使用上の制約がある ・旧郡会議事堂の図書館は機能を果たしていないので検討が必要 ・旧郡会議事堂明治ホールへの階段が急で高齢者が登れない ・トイレの洋式化 ・旧郡会議事堂の利用について靴の脱ぎ履きが手間、土足が望ましい
連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ・記念館のセレモニーなどのイベント開催時、横の行政間、観光協会、Hisu花ワークショップなどの市民間の連携が欠けているので一体となって実施できないか ・国史跡指定により地域の活用方法をもっと拡大してもいい ・地域で盛り立てていくため「住民参加」「住民活用」が必要 ・藤島歴史公園の「歴史」的意義を伝えるための公園関係団体との事業連携 ・藤島地域のおまつり事業に記念館事業をもっと入れ込み知名度アップをはかる

第4章 基本方針

「旧東田川郡役所及び郡会議事堂」は明治時代に施行された郡政の様子を具体的に表し、敷地全体が遺跡としての価値を持つ国史跡であることを重視しながら、市民や来訪者が地域の歴史を学び、施設の文化的価値を理解するとともに、地域住民が**生涯を通じて楽しめる文化活動の拠点**として親しみや魅力を感じることができるよう活用を積極的に行う。さらに関係機関・周辺施設と連携した事業の展開、時代に即した情報発信により地域活性化につなげる。

第5章 利活用

第1節 方向性

策定計画の見直しにあたり、令和5年国史跡に指定された事による歴史学習の場の強化、平成27年度に整備された隣接する藤島歴史公園「Hisu 花」との事業連携、一体的な活用のための整備、また、時代に即したツールによる情報発信を考慮し、次のとおり方向性を定める。

なお、共通事項として地域住民が参加する事業展開に努め、地域の力で次世代へとつないでいく。

①東田川文化記念館の文化財価値、歴史を学び伝える地域学習・歴史学習の場

来訪者が旧東田川郡の歴史を学びやすい環境を整え、地域の歴史の理解と伝承、文化財保護意識の向上へとつながる学習の場としての活用をはかる。

②生涯を通じて楽しめる文化活動の拠点

開館当初から「生涯学習の場」として地域に根付いている経緯もふまえ、引き続き芸術・文化の享受の場として活用する。

③地域と連携し魅力を発信する

藤島歴史公園「Hisu 花」と連携し一体的な活用を図り、館内及び歴史公園内の適切な整備を行いながら地域活性化のための多彩な活動ができる場を目指す。行政だけでなく、「Hisu 花」に関連する地域住民グループをはじめとして、歴史的につながりのある関係団体・企業とも連携しながら活用を進める。

また、幅広い年代への周知をはかるため多様な手法や媒体を使って広く情報発信を行い、観光文化施設としてPRを強化する。

第2節 利活用の方法

利活用の方向性を実現するため、以下の3点のテーマ設定を行い、実践していく。
 なお、方法にはワークショップで出された現状と課題に対する解決策を反映する。

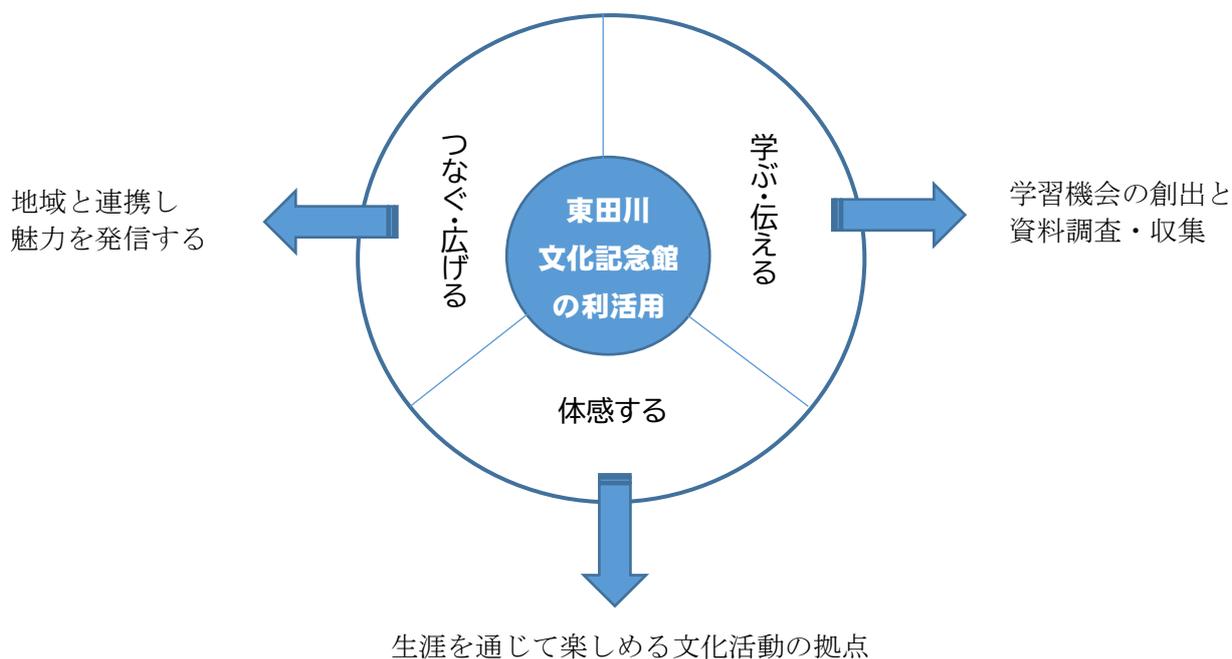


図5 活用のイメージ

①学ぶ・伝える：学習機会の創出と資料調査・収集

- ・文化財価値がより明瞭となるよう、地域全体で資料収集・調査を進める。
- ・旧東田川郡政の特色を伝える展示内容を充実させる。
- ・講座、講演会、シンポジウム、関連史跡めぐり等を開催し、市民が知る・学ぶ機会の創出に努める。
- ・東田川文化記念館郷土研究サークルの研究発表会、研修会等の活動を支援し、その成果を企画展示等で市民に公開し、地域の歴史への興味・関心を高める。
- ・市内外の小中学生、高校生の地域学習等、当館文化財の価値を学ぶ学習機会の創出、来館時の展示解説や出前授業等の支援を行う。
- ・大学のゼミ、フィールドワークへの対応、学会による現地見学等の要請に対し支援を行う。

②体感する：文化活動の拠点

- ・作品展示、コンサート、各種講座など、地域住民の文化活動の拠点とする。
- ・市内芸術文化団体とのタイアップ事業を開催し芸術に親しむ機会、また世代間交流へとつながる機会を創出し、作品発表の場として活用する。
- ・様々な分野のアーティストを招聘し、地域住民の文化力の向上を目指すとともに県内外の来訪者との交流の場、多様な文化活動が可能となる場の提供活動を行う。
- ・文化財建造物内での活動により文化財を身近に感じ、保護意識の向上を図る。
- ・芸術文化活動を行う利用者にとって利便性の向上をはかるためアンケート調査を行い、施設の設備環境を整える。

③つなぐ・広げる:地域をあげた連携活用と魅力発信

《連携》(○印…連携先)

○藤島歴史公園「Hisu 花」(所管:藤島庁舎)

- ・藤島地域のシンボルである藤の花、冬期のイルミネーション等公園関連事業と連携し地域活性化につなげる。
- ・歴史公園と一体的な活用を図るため活用しやすい公園整備を検討する。
- ・記念館と歴史公園をつなぐサイン表示(看板等)を整備する。

○ふじしま観光協会

- ・藤島地域のおまつりにおける参画事業の規模を拡大しPRに努める。
- ・藤島地域の歴史文化の紹介、推奨ルートを含めた観光マップの作成を検討し記念館周辺観光散策につなげる。
- ・観光ボランティアと連携し記念館ガイドも含めた観光ボランティア体制を構築する。
- ・イベント開催時や週末に館内にスイーツカフェ、地域の特産物を購入できるスペースの設置を検討する。

○各地区地域活動センター

- ・藤島地域の生涯学習関係機関(各地域活動センター、東田川文化記念館、ふじしまスポーツクラブ)調整会議を活用し、旧東田川郡政の出前講座など郷土史を学ぶ機会の提供・普及を促進する。

○地域の関係機関

- ・郡制時代の事業(電気事業、稲作改良、区画整理など)に関わる現在の関係機関と連携し歴史的つながりを伝える事業の実施を検討する。(東北電力㈱、水田農業研究所、因幡堰土地改良区等を想定)

○鶴岡市内の国史跡(社会教育課)

- ・市内史跡(旧致道館、松ヶ岡開墾場、小国城跡)と連携した史跡めぐりなどの事業を検討する。他の史跡について当館の展示で紹介、パンフレットへの掲載など市内全体の史跡の周知に取り組む。

《活用・休憩スペース》

- ・建物内に学習、芸術文化活動など自由に過ごすことができる多目的スペースの設置を検討する。
(例:ラーニングコモンズ[※]等)
- ・来館者がゆったり過ごせるような休憩スポットを館内と館外に設置する検討をする。
- ・旧郡役所後方の池を中心に建造物周辺の庭を整備し、敷地内を一周できるような散策路を検討し整備する。

[※]ラーニングコモンズ…学生の主体的な学習を支援する空間を指し、グループでディスカッションをする場として利用することができる

《情報発信》

- ・イベント開催時、SNSやホームページ上で季節ごとの敷地内の花木の様子、インスタ映えポイントなど、積極的なおかつ定期的な情報発信を進める。
- ・来館者滞在時におけるインターネット環境の利便性の向上に加え、情報発信の促進のため施設内のWifi環境を整備する。
- ・市内外からの観光客の利便性を高めるため道路標識について整備する。

表5 ワークショップで出された現状と課題に対する解決策(抜粋)

分野	解決策
展 示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示の目玉を設定する ・ 展示順路(導線)を明確に表示する ・ 農業の発展の原点、郡政と近代農業の始まりが分かるように ・ 総合的な年表(国内、県内、藤島地域)の掲示 ・ 小学生向けにクイズ形式を取り入れ、理解を深めてもらう ・ 常設展示と企画展示を明文化しストーリー性を持たせた展示が必要 ・ 説明やガイドに工夫を。学芸員の専門的なアドバイスが必要 ・ 小学校向けに校外学習 クイズ・QRコードで発信 ・ 郡役所の復元時イメージをVRで紹介する ・ 東北電力鉄塔、農業試験場など周辺の関連施設を紹介する
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記念館周辺の四季をSNSを通じて分かりやすく ・ 魅力・価値をターゲット層に合わせて発信する ・ 来館者からの発信を促す(SNS) ・ 歴史好きな「歴女」を招待して発信してもらう ・ インスタ映えポイントの明示
案内表示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園内に記念館への導線表示、イベント案内表示を設置 ・ 公園内の鉄塔の説明表示
休憩スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 館内にスイーツカフェ、アーティストサロン、地域の特産物が提供できるレストランを設置 ・ 後方の池を整備し、中庭や八重桜下にベンチ、バラソルチェア、ソファを設置
藤島歴史公園 「Hisu 花」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記念館につながる園路の整備 ・ 専門業者が公園全体の造園管理をし、指導のもと、庄内特有の樹木や花を植える ・ 藤の花を立体的に見せる工夫をする ・ 公園内にベンチ、東屋を設置する ・ 公園内にいづみやのようなカフェを設置する ・ 照葉樹、広葉樹の森のような木陰をデザインする
連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史公園と連携し魅力あるイベントを効果的に実施する ・ 特産物、お土産の販売 ・ 郡長室で抹茶カフェ、茶会を開催 ・ 明治ホールでワンドリンクコンサート ・ 若い人が魅力を感じるコンサートの開催 ・ 展示専門の学芸員の配置をする(委託) ・ 因幡堰土地改良区と調整し水利の利用で歴史を伝える ・ 水田農業試験場と連携し米作りの歴史関連イベントを開催 ・ 東北電力と連携し鉄塔、電力のしくみ、電気事業組合の歴史を学ぶ

第6章 活用のための整備

第1節 方向性

歴史的価値を理解・享受するための補助、見学者・利用者の安全確保や利便性の向上を主軸として利活用の方法に沿って整備を進める。但し国史跡の整備であるため事前に文化庁（社会教育課）と協議し史跡としての本質的価値を損なわない方法・手段を前提として行う。また、館内だけでなく歴史公園と一体的な活用が図れるような公園整備を行い記念館と公園の往来の流れをつくる。

※時代の変化により将来的に整備の考え方も変わっていくことも考慮し、整備完了後は必要に応じて再整備等の機会を設け、歴史空間の適切な保存を永続的に行っていく。

第2節 方法

■展示室・収蔵スペース

国史跡指定に伴い「東田川郡」に関わる展示内容の充実を図るため、収蔵資料の整理とリスト作成、資料調査・収集を実施する。必要に応じて展示品の保護、防犯対策、企画展示の充実を図るため展示ケース等の購入を検討やまた来館者が楽しみながら学べるよう映像資料の設置について指定管理者と協議を進める。

■活用スペース設置の検討

市民が学習、芸術文化活動、仕事など、飲食も可能で自由に活動できる多目的スペースの確保を検討する。旧郡会議事堂1階の鶴岡市立図書館藤島分館や旧郡役所のギャラリー藤、旧電気事業倉庫等を将来的な候補地とし先進事例も参考に調査・研究をしていく。

さらに利用者の利便性を高めるため土足の出入りについても合わせて検討していく。

■憩いの場の設置の検討、周辺景観整備

来館者が一時的に休憩できるようなスペースの設置を検討する。また、建造物周辺の植栽を整備し景観を整え、敷地内を一周できるような散策路などの整備について検討する。

■バリアフリー整備

旧郡役所、旧郡会議事堂、旧電気事業組合倉庫のトイレの洋式化率が男子トイレが50%、女子トイレが40%であり特に図書館と明治ホールのある旧郡会議事堂については来館者に不便をきたしているため改修を進める。また、旧郡役所及び旧郡会議事堂ともに来館者の導線通路には段差があるため、車いすでも周遊可能なバリアフリー整備をする。

■歴史公園「Hisu花」の整備

歴史公園から記念館入口につながる園路を分かりやすく整備する。公園内に記念館の解説案内板を設置し、開催イベントの告知も掲示できるようなサイン版の設置や、公園に隣接している鉄塔は東田川郡制時代からの電気事業に関わりがあるため説明看板の設置についても管理者等と協議をしていく。

■情報発信・環境整備

Wifi環境を整備し、情報ツール使用の利便性を高めるとともに、来館者による情報発信の促進につなげる。

市内外からの来館者の誘導のため道路等の案内標識の整備について関係課と協議していく。

第7章 運営体制の整備

利活用計画を適切になおかつ円滑に進めていくため、運営体制を整備・連携強化する。

第1節 方向性

- ・利活用、また利活用に係る整備を円滑に行うため庁内関係各課との連携を強化する。
- ・地域住民や地域団体、教育機関等との連携をはかり、協働で取組む事ができる体制を確立する。

第2節 方法

■学芸職員の設置の検討(資料の収集・調査)

- ・館内の資料を整理・リスト化し、藤島地域に潜在する資料を調査・収集した上で学芸職員の設置が必要かどうか検討する。

■庁内での連携

- ・利活用事業を進めるにあたり保存、利活用、整備について、関係各課で連携して事業を進めていくため、教育委員会社会教育課(保存・修理)、藤島庁舎総務企画課(管理・利活用)、藤島庁舎産業建設課(歴史公園整備・観光)、郷土資料館(資料収集)の理解と協力を得て、整備関係法令や現状変更取扱い基準の遵守、予算の確保、関連事業の実施についての情報共有を行う。

表 7-1 担当部署の役割分担

項目	主たる担当課
保存・修理に関すること 文化庁との協議に関すること(事前協議、立会等)	社会教育課
管理(指定管理委託)に関すること 利活用に関すること	藤島庁舎総務企画課
観光資源としてのPR, 観光誘致に関すること 藤島歴史公園との一体整備に関すること	観光物産課 藤島庁舎産業建設課
藤島歴史公園関係団体に関すること	藤島庁舎総務企画課(地域振興班)
史料収集に関すること	藤島庁舎総務企画課・郷土資料館

■地域関係者・関係機関との連携

- ・利活用計画に基づいた事業展開ができるよう指定管理者と行政の間で共通認識を図りながら進める。
- ・古代、中世、郡制時代の藤島地域の歴史調査研究を進め研究結果の周知をはかるため、指定管理者、郷土研究サークル、郷土資料館との連携を強化する。
- ・郡事業の歴史に係る因幡堰土地改良区、水田農業試験場、東北電力株などとの関係機関とのつながりを深め、多方面から郡役所の功績を広めていく。
- ・市内外の小、中、高等学校と連携し学習機会を設けたり、職場体験の受け入れをし、校外学習・地域学習による活用推進を目指す。
- ・歴史公園との一体的な利活用をはかるため、「Hisu 花イルミネーション」ワークショップ、公園整備関係者との連携を強化する。
- ・東田川文化記念館の魅力を市内外に発信し地域活性化と観光振興を図るため、ふじしま観光協会、出羽商工会藤島支所との連携を強化する。

- ・東田川文化記念館をはじめ、藤島地域の周辺文化財を地域全体で一体的に保存活用し、学習機会を創出し後世へと継承していくことができるよう、地域住民、町内会や学校関係者との連携をはかる。
- ・利活用、またそれに伴う整備の各段階における状況や、目的や将来像が理解できるよう地域住民や市民が参加できるような周知機会を創出し、情報発信に努める。
- ・藤島歴史公園との一体活用も視野に入れ、記念館関係者だけでなく、歴史公園関係団体、観光協会、商工会等が参集し、利活用計画の共通認識をはかるとともに各団体の活動・事業の情報共有をする場を設け、新規イベントの創出につなげる。

表 7-2 主な地域住民関係団体(藤島地域)【公園との一体活用】

団体名	人数(人)	活動内容	活動回数
東田川文化記念館 郷土研究サークル	31	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土研究のための研修会の実施 ・郷土の歴史・文化に関する史料の収集と整理への支援協力 ・東田川文化記念館及び周辺史跡の案内解説 	年4回 (総会1回、 研修会3回)
Hisu 花 ワークショップ	31	<ul style="list-style-type: none"> ・「Hisu 花」を活用した地域づくりの検討及び実践 ・「Hisu 花」の資源・特性を生かす公園づくりへの提言 ※具体的な活動として2018年より藤島イルミネーションを主催している	年7回 (ワークショップ 5回、イベント2 回)
鶴岡藤友会 (つるおかふじとも くらぶ)	18	<ul style="list-style-type: none"> ・Hisu 花をはじめ公共施設等に植栽されたふじ及び藤棚の管理作業の実施 ・藤棚管理技術研修の実施 ・ふじの花まつりへの協力 	年12回 (管理作業11回、 研修1回)
花咲かせ隊	15	<ul style="list-style-type: none"> ・Hisu 花の花壇整備・定植活動、水やり等の実施 ※地元住民、庄内農業高等学校、子ども会で一緒に実施	年4回 (会議1回、整備 2回、定植1回) 別に6～9月は水 やり等管理を実施
ふじしま観光協会	63人 (個人46人 17団体)	<ul style="list-style-type: none"> ・Hisu 花の利活用、藤や特産品の推進等、調査研修の実施 ・各種イベントの開催、観光情報発信等、広報宣伝事業の実施 ・三大まつりへの支援、各種物産展イベント等への参加、観光協会だより作成等、観光物産事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回 (総会1回、理事会2回) ・ふじの花まつり、夏まつり、秋まつりの支援、おもてなしイベント等の企画開催

表 7-3 東田川文化記念館が関わる地域のイベント

イベント名	主催	時期	東田川文化記念館の関わり
ふじの花まつり	ふじの花まつり実行委員会	4月下旬～ 5月上旬	藤の花に関する企画展示開催 (写真展等)
ふじしま文化 フェスティバル	ふじしま文化フェスティバル実行委員会	10月～11月	明治ホールコンサートの開催
Hisu 花 de ないと (藤島歴史公園イルミネー ション点灯式)	Hisu 花 ワークショップ	11月3日	カフェ休憩スポット(旧郡役所) クラフト体験・販売会場(旧郡会議事堂)
Hisu 花関連イベント	Hisu 花 ワークショップ	11月～ 1月上旬	イベント会場(クラフト体験・販売、コンサ ート会場)

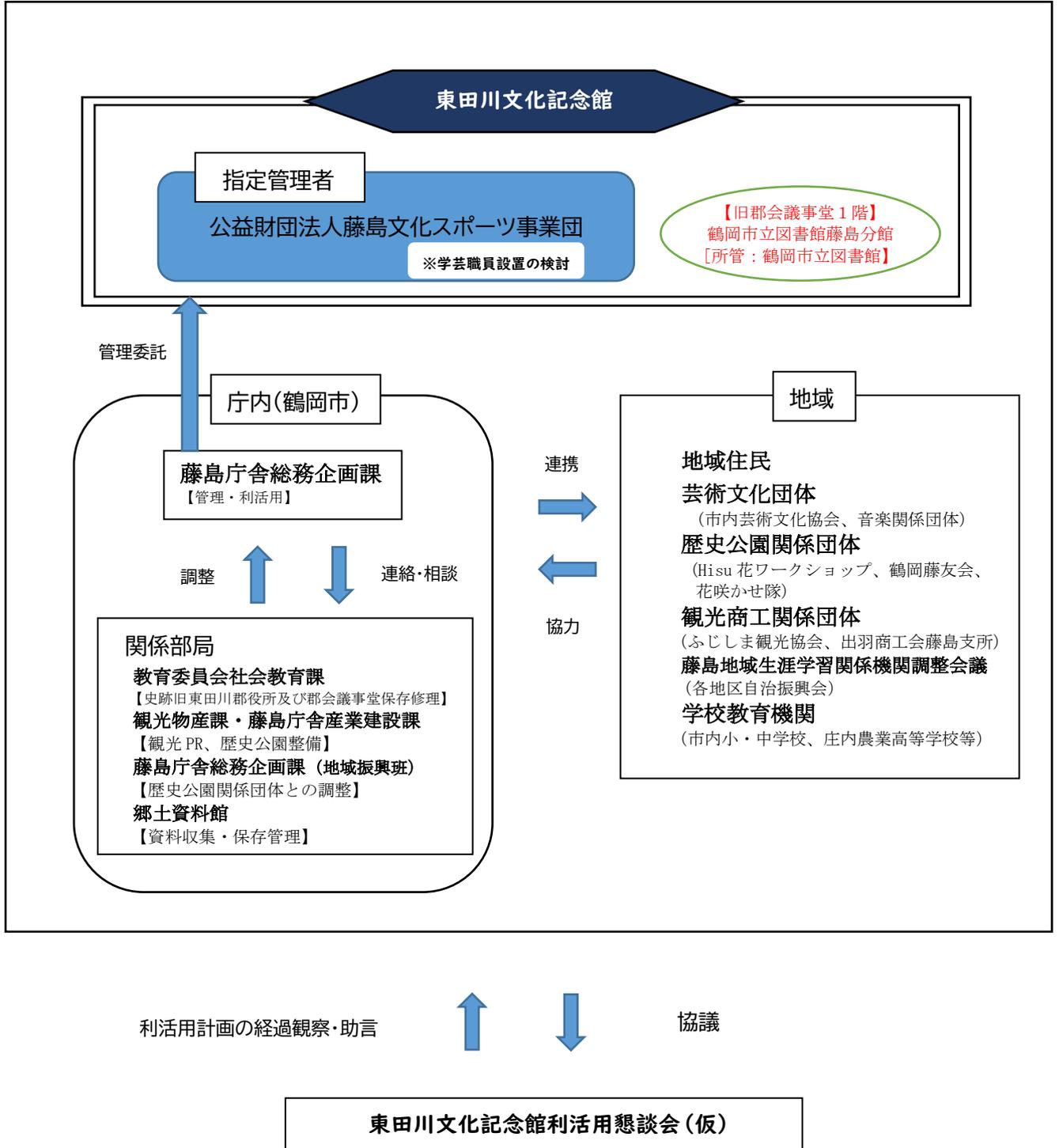


図 7 東田川文化記念館 運営体制・連携図

第8章 施策の実施計画と経過観察

第1節 実施計画

活用に関する整備の実施計画については地域住民や関係者の理解と協力を得て段階的に進めていく必要がある。なお、本計画は社会教育課で令和8年度策定予定の「史跡旧東田川郡役所及び郡会議事堂保存活用計画」の活用部門へ取り込むこととしているため、令和9年度からは保存活用計画の一貫として進めていく。令和6年～令和8年度は文化財保存に影響のないハード整備及びソフト事業を実施する。

令和9年度以降は文化庁と協議が必要な整備を社会教育課と共有し、重要度・緊急度を精査し市の財政状況を勘案しながら進めていく。ソフト事業についても社会教育課と情報共有しながら進める。

■想定される主な事業内容

○施設の整備

①展示室・収蔵スペース

- ・展示室の再整備（展示内容の再検討、必要備品の購入、映像資料整備）
- ・資料保管のための収蔵スペースの確保

②活用スペース・憩いの場

- ・多目的スペースの検討と整備（芸術文化活動スペース、スタディスペース等を想定）
- ・図書館藤島分館の将来的な検討
- ・休憩スペースの検討と整備
- ・敷地内の樹木剪定、散策路の整備

③バリアフリー対応

- ・旧郡役所、旧郡会議事堂のバリアフリー対応（段差の解消・車いす購入）
- ・トイレの洋式化（旧東田川郡会議事堂4基[男子2基・女子2基]、
旧東田川電気事業組合倉庫2基[男子1基・女子1基]）

④歴史公園からの誘導

- ・公園内から記念館への導線サイン看板の設置
- ・公園内に記念館説明版・イベント周知看板の設置

⑤情報発信

- ・Wifi環境の整備
- ・観光サイン看板（道路標識）の整備

○ソフト事業

①学習機会の創出

- ・有識者、専門家による歴史講座の開催
- ・小中学生、高校生の学習機会の創出、展示解説、出前事業

②調査・研究

- ・資料整理、調査、収集（郷土研究サークルと共催）
- ・郷土研究サークルの活動支援（研究発表の公開）
- ・関係機関との連携事業の検討（郡事業に関する歴史的なつながりの掘り起こし）

③文化活動の拠点 (市民の芸術文化活動の場)

- ・芸術文化団体とのタイアップ事業、利用情報公開
- ・利用者の利便性の向上のためのアンケート調査

④情報発信

- ・観光パンフレット・マップの作成
- ・観光ガイドの育成・研修
- ・SNS、ホームページ等による情報発信
- ・イベント情報、実施講座内容の公開

○運営体制

- ・学芸職員設置の検討 (資料の収集・調査後)
- ・庁内関係各課との連携
- ・地域関係機関との連携

図 8-1 実施計画案(活用:ハード整備)

項目	内容	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 100%; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"></div> …実施予定 (保存に影響のない整備) </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 100%; border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> …検討の上実施 (文化庁との協議必要) </div>							
		令和6 2024	令和7 2025	令和8 2026 保存活用 計画策定	令和9 2027	令和10 2028	令和11 2029	令和12 2030	令和13 2031
展示室・収蔵スペース	展示室の再整備	資料調査・収集	資料調査・収集、リスト作成	展示資料見直し、展示検討	備品購入、展示替え	※随時見直し			
	収蔵スペースの確保	収蔵資料リスト化・土蔵整理	土蔵整理	調湿剤購入、新規資料収蔵	※新規資料収蔵				
活用スペース	多目的スペースの検討・整備	多目的スペース検討							
憩いの場	休憩スペースの検討・整備	休憩スペース検討							
	敷地内の樹木剪定、散策路の検討・整備	郡役所裏庭園整備検討	庭園整備	庭園整備	※以降維持管理				
バリアフリー対応	旧郡役所・旧郡会議事堂のバリアフリー対応	旧郡役所バリアフリー設置	旧郡会議事堂バリアフリー設置	旧郡会議事堂バリアフリー設置					
	トイレの洋式化		施工方法・改修計画検討	文化庁へ相談・予算要求	施工 (旧郡会議事堂)	施工 (旧郡役所)	施工 (旧電気事業組合倉庫)		
歴史公園からの誘導	公園内から記念館への導線サイン看板の設置	サイン看板設置							
	公園内に記念館説明版・イベント周知看板の設置	説明板設置・イベント周知版検討	イベント周知版の設置						
情報発信	Wifi環境の整備	設置場所・施工方法確認	設置						
	観光サイン看板 (道路標識) の整備	標識修正・設置協議	標識修正						

図 8-2 実施計画案(活用:ソフト)

項目	内容	令和6 2024	令和7 2025	令和8 2026 保存活用計 画策定	令和9 2027	令和10 2028	令和11 2029	令和12 2030	令和13 2031
学習機会の 創出	有識者、専門家による歴史講座 の開催								
	小中学生・高校生の学習機会の 創出、出前事業等								
調査・研究	関係機関との連携事業(郡事業 に関する歴史的なつながりの 掘り起こし)								
	資料整理・調査・収集								
	郷土研究サークルの活動支援 (研究発表と公開)								
文化活動の 拠点	藤島芸術文化協会等、一般芸術 文化団体とのタイアップ事業								
	利用者の利便性の向上のため のアンケート調査								
情報発信	観光パンフレット・マップの作 成 [連携:産業建設課]								
	観光ガイドの育成・研修 [連携:ふじしま観光協会]								
	SNS、ホームページ等による情 報発信								

図 8-3 実施計画案(運営体制)

内容	令和6 2024	令和7 2025	令和8 2026 保存活用計 画策定	令和9 2027	令和10 2028	令和11 2029	令和12 2030	令和13 2031
常勤学芸員の設置の検討	資料整理・調 査・収集	資料整理・調査・ 収集→業務整 理、設置検討	設置検討・予算 要求	(募集)	(学芸職員 設置)			
庁内各課との連携	計画の情報 共有・事業連 携							
地域関係団体との連携	計画に関す る情報提供 事業連携							

第2節 経過観察と利活用懇談会(仮)の開催

本計画で示した活用に関する方向性や方法に基づき、事業を確実に実施していくために施策の内容についての経過観察を行うことが重要である。

経過観察の方法としては、事業の実施と達成状況、課題等を把握するための定期的な自己点検の実施が挙げられる。自己点検表を作成し、年1回担当課で点検評価を行う。

なお、自己点検の結果をもとに事業の進捗状況の確認、情報交換も含めた「利活用懇談会」(案)を開催し、意見聴取し必要に応じて事業の見直しとブラッシュアップをはかる。懇談会は引き続き利活用策定委員で構成する。

表 8-4 自己点検表 案 (年1回)

テーマ	内容	点検指標	取組の評価		
			達成度 (1～3)	課題の内容	課題への措置
学ぶ・ 伝える	学習機会の提供が適切になされているか(展示)	・館内見学者数 ・館内案内者数			
	学習機会の提供が適切になされているか(事業)	・講座等実施報告			
	歴史講座、調査研究の成果の情報発信がなされているか	・HP掲載内容 ・アクセス数			
	学校教育での活用は実施されているか	・小中学校等見学 件数 ・職場体験件数			
	社会教育での活用は実施されているか	社会教育関係 団体見学件数			
体感する	芸術文化団体とのタイアップ事業がなされているか	・展示/事業記録 ・芸術文化団体施設利用 記録			
つなぐ・ 広げる	庁内関係各課との連携が十分に図られているか	・打合せ記録			
	地域との連携が十分に図られているか	・連携事業実績			
	歴史公園との一体活用がなされているか	・関連事業実績			
	観光文化施設として活用されているか	・館内見学者数 ・パンフレット作成 部数 ・観光ガイド件数			
	SNSでの情報発信を定期的に行っているか	・発信内容 ・アクセス数			
その他	整備は適切に実施できているか	・整備事業 実施状況			
	整備状況の情報発信を定期的に行っているか	・発信内容 ・HPアクセス 数			

※達成度3：達成できている、2：概ね達成できている、1：達成できていない

資料

東田川文化記念館利活用ワークショップ（令和3・4年度） 実施報告

1 ワークショップ実施概要

(1) 開催の目的

東田川文化記念館を「地域の方が足を運びたいくなるような施設」にするために地域の方を中心としたワークショップを開催し、今後の利活用計画策定に向けて様々な意見を収集するために実施した。

(2) 開催期日及び内容

- ① 専門家より東田川文化記念館の利活用等についての講演・アドバイス 1時間
- ② 講師と共に記念館の現況を視察 30分
- ③ 利活用についての意見出し 1時間30分

第1回：令和3年11月20日（土）

テーマ「歴史公園の魅力アップで記念館の来訪者を増やす」

講師：温井 亨（東北公益文科大学教授）

第2回：令和3年12月11日（土）

テーマ「東田川文化記念館周辺の山と川と花と文化財の再認識」

講師：植松 芳平（鶴岡市文化財保護審議会委員長）

第3回：令和4年3月12日（土）

テーマ「観光の視点から記念館の価値について」

講師：小林 好雄（出羽庄内地域デザイン代表取締役）

第4回：令和4年4月16日（土）

テーマ「学芸員の視点から今後の展示のあり方について」

講師：本間 豊（公益財団法人致道博物館学芸部長）

第5回：令和4年5月21日（土）

テーマ「利活用計画に対する意見のまとめについて」

講師：温井 亨（東北公益文科大学教授）

(3) 会場

東田川文化記念館明治ホール

(4) 参加者

東田川文化記念館の利用者、藤島歴史公園「Hisu花」ワークショップメンバー、学校関係者野他、チラシの配布等により公募した。

参加人数：第1回18名、第2回17名、第3回17名、第4回16名、第5回19名

2 ワークショップの主な意見

(1) 第1回「歴史公園の魅力アップで記念館の来訪者を増やす」

①歴史公園の魅力アップで記念館の来訪者を増やす			R3.11.20 講師：温井亨氏
場所	キーワード	現状と課題	解決策
公園	公園整備	大堰に水が流れていない。	太陽光発電を使って水を流す。→ 郡電の精神を引き継ぐことになる。
	公園整備	池の周囲が危険。	きれいな池に整備が必要。池を造った意味を明確にする。
	公園整備	藤の景観が平面的で高さがない。	低木と高木の調和、藤の花を立体的に見せる工夫を。
	公園整備	藤の開花時期が終わると花がない。	庄内に特有の樹木や花を植える。(シャクナゲ、アジサイ、ミズナラ、ケヤキなど) 低木の生垣(ツツジなど)で公園や池の周りを囲む。
	公園整備	園路が決まっっていて芝に入りにくい。	入りやすい工夫、藤棚の下を散策できるようにきれいにする。
	公園整備	防除シートに落ち葉や雑草が生えている。	歩く気になれるような整備をする。
	公園整備	草が伸び放題になっている。	年数回の除草ではなく常に心地よく公園に入れるような除草体制にする。
	公園整備、案内表示	Hisu花ゲートがない。国道に「Hisu花」表示がない。	駐車場と公園の一体化を。イルミネーション看板をつける。
	休憩スペース	カフェなどの休憩スペースがない。	いづみやのようなカフェが設置できないか。飲食スペースを生かした店との設置と活用。
	案内表示	鉄塔の残っている理由が明示されていない。	鉄塔がある理由を大きく表示。旧東田川電気事業組合の説明をつける。
	休憩スペース	ベンチが少ない。	ベンチ、東屋を設置。物置小屋は邪魔。
	公園整備	築山が利用されていない。	築山を利用したイベント会場を設置できるようにする。
記念館⇄公園	案内表示、公園整備	公園内では記念館へどこから入れるのか、記念館で行われているイベントが分からない。	公園内に記念館への表示、イベント案内表示をつける。 公園の真ん中から記念館に入れるように整備する。
記念館	整備	郡役所の周りを散策しにくい。	雰囲気を楽しめるようにきれいに整備する。
	案内表示	水田試験場との関連性が分からない。	イベント等を通して関連性を明確にしていく。

②東田川文化記念館周辺の山と川と花と文化財の再認識			R3.12.11 講師：植松芳平氏
場所	キーワード	現状と課題	解決策
記念館	展示手法	展示のテーマ・見所の設定を明確にする。	農業の発展の原点、郡政と近代農業の始まりがわかるようにする。 ・相良郡長、島野嘉作と乾田馬耕、新関因幡守と因幡堰、田澤勘七、古郡神楽、水田農業試験場と庄内農業高等学校
			明治の歴史を知り、感じられる場所にする。 ・洋風・和風の荘厳な建造物群、庭園、ガス燈 ・雨落としの玉石が金峰石(酒井家の御用石) ・総合的な年表(国内・県内・藤島)を ・電気事業組合の歴史を伝える。送電線の説明 ・藤島4大偉人の紹介(新関因幡守・相良守典・島野嘉作・土田竹童)
	情報発信	情報発信が弱い。	・記念館周辺の美しい四季をSNS等で分かりやすく発信する。
記念館⇄公園	連携事業	連携イベントの開催。	・オクトーバーフェストとして10月10日にイベントを開催する。 →歴史公園の丘は観客席として優れているため(400人~500人に対応)

③観光の視点から東田川文化記念館の価値について～庄内・県内の人が訪れる藤島～ R4.3.12 講師：小林好雄氏			
場所	キーワード	現状と課題	解決策
記念館	情報発信	記念館の魅力・価値をどう伝えるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力や価値をターゲット層に合わせて発信する。 ・シニア層→アナログネットワークで、若手→SNS等WEB配信をする。 ・来館者からの発信を促す。(インスタ映えポイントの設定) ・他では見られない価値を発信する。
	情報発信、連携事業	なかなか入館者が増加しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ(展示、イベント)ごとにターゲットを世代別に分けて発信する。観光の拠点としてスイーツ、カフェ営業など。また特産物・お土産の販売もする。(売店を充実させる)
	展示手法	展示の内容を理解するには？	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生向けには自ら展示作品の説明を書いてもらう。テーマ展示ではクイズ形式も取り入れる。
	展示手法	よりよい展示方法とは？	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の目玉を設定する。(建造物、米作り、耕地整理、奨学金制度事業、電気事業) ・常設展示と企画展示を明確化しストーリー性を持たせた展示が必要。 ・解説やガイドに工夫が必要。 ・学芸員の専門的アドバイスが必要。 ・導線(順路)を明確にする。 ・米作り資料館にして行政関係者などの視察を促進する。
記念館⇄公園	連携事業・案内表示	歴史公園との連携がうすい。	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるイベントを効果的に実施する。 ・館内へ誘導する表示(三郡の歴史・乾田馬耕・金唐革紙)をする。
記念館	情報発信・連携事業	アフターコロナでいかにつなげるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・稲作・藁工芸について小学校の校外学習・クイズ・QRコードで発信する。 ・価値ある文化財で習い事教室の展示や発表をする。(親子向け) ・郡長室で抹茶カフェ開催。和服、古伊万里で。(若者・子育て世代女性) ・野外コンサートと同時開催、藁細工体験も。 ・お菓子をテーマにウォークラリー開催(40代以降の女性向け)
	展示手法・連携事業	明治時代のことならここが一番と感じさせたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・稲作の歴史など小学生向けの展示品の説明が必要。テーマ展示の場合はクイズ形式も取り入れる。 ・NHK文化センターを発展的に再構築する ・中田喜直とご縁 ・雪の降る町コンサートを拡大・発展させ、明治ホールで行う。
	連携事業・整備	憩いの場として活用するには。	<ul style="list-style-type: none"> ・スイーツカフェ、アーティストサロン、地域の特産物が提供できるレストランを開設する。 ・中庭や八重桜下にベンチ、パラソルチェア、くつろげるソファを設置。 ・郡長室から歴史公園に出られる通路、庭園の整備。
	連携事業	女性を集客するには？	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェの営業をする。(桜、藤の季節に地元スイーツで女性集客、お米の食べ比べなど) ・明治ホールでワンドリンクコンサートを行う。 ・Hisu花でイルミネーションの時期にカフェを開設する。
	情報発信・連携事業	来館者のターゲット、集客方法	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史大好きな「歴女」を招待して発信してもらう。 ・若い人が魅力を感じるコンサートの開催。 ・藤島の特産物、お土産の販売。注文受け付けなど行う。

④学芸員の視点から今後の展示のあり方について			R4.4.16 講師：本間 豊氏	
場所	キーワード	現状と課題	解決策	備考
記念館	展示手法	展示の目玉は何か。	「建物」そのもの、この地域ならではの「米作り」、乾田馬耕による「耕地整理」、日本育英会発足の28年前に「奨学金制度事業」、「電気事業」を伝える。	
	展示手法・ 情報発信・ 連携事業	展示説明の工夫と発信が必要。	必要な展示手法 ①動画での米作りと獅子舞の記録映像 ②ストーリー性を持たせた表示説明 ③展示物の保存の仕方 ④他館の所蔵品の借用展示（SNSで紹介、OnLineで交流、シンポジウム） ⑤解説やガイドのありかた（音声、動画、QRコード、フリーWifi） ⑥アナログでの発信（マスコミ利用）	
			・常設展示と企画展示を明確に色分けする。	
			・展示の充実を図るための協賛金募集、学芸員からの専門的なアドバイスを受ける。	
			・インスタ映えポイントの設定。（郡長室から、四季の花と建物）	
			・郡役所時代の復元イメージをVRで見せる。	
			・展示経路の明確化。（各展示室や展示コーナー入り口にポップ表示を工夫）	
			・米作り、農具・耕作方法、藁文化の本物を見せる。 （藁工芸部会と連携する）	
			・常設展示では独木舟と勾玉、企画展ではこけしと時計とカメラを展示する。	
			・記念館の展示の目玉は独木舟。象の展示は企画・収蔵品展で行う。	本間部長助言
・藁文化・ばんどり等の作り手は貴重、映像5分で公開。	本間部長助言			
・獅子踊りの映像保存。	本間部長助言			

⑤利活用計画に対する意見のまとめについて				
場所	キーワード	現状と課題	解決策	備考
記念館⇄公園	連携事業	藤島歴史公園「Hisu花」との連携活用	・造園専門の業者と契約をし歴史公園を整備する。 ・公園の利活用をリードできる人事の配置をする。	
記念館・公園	人材・ 連携事業	人材の配置	・展示専門の学芸員の雇用を考える。 ・市民の意見や声を吸い上げ、市民の手で企画運営をできるようにする。	
記念館⇄公園	連携事業・ 公園整備	水の流れが人の流れに～「Hisu花」にせせらぎをつくり、記念館の池にもながれを～	・因幡堰の年間を通した水利利用で小火力設備を、土地改良区と調整する。 ・花と水と風で人の流れを生み、誘客へつなげる。	
記念館	展示手法・ 情報発信	郡役所・電気事業組合の展示説明の工夫と発信	・入口付近に映像で展示概要の説明案内をする。 ・ボランティアガイドを育成し、地域住民に記念館の価値を知らしめる契機とする。	
記念館	展示手法・ 連携事業・ 情報発信	PRの仕方 ～ターゲットは？企画は？～	・米作りのストーリーを表示する。（季節・拠点・広域） ・明治ホールに足を運んでもらうためのお手軽な演奏会、幼稚園や保育園の発表会を開催する。 ・洋風、和風建築の素晴らしさを伝える。（地元への周知から誇りへ） ・憩いの場を工夫する。（イベント開催に合わせたカフェ等の企画運営）	
記念館	人材	支える人の配置～人を見つける、探す、育てる～	・米作りのストーリーを紹介できる学芸員、明治ホールイベントを企画運営できる人、施設そのものの素晴らしさを伝える人、憩いの場の工夫を拓ける人を配置する。	
記念館・公園	人材	どのような人材が必要か。	①東田川文化記念館 ・運営協議会（寺子屋、地域連携講座、山形学） ・文化サークル（明治ホールコンサート、貸館、展示、会議） ・学芸員（常設・企画展示）	
			②藤島歴史公園「Hisu花」 ・公園アドバイザー（Hisu花活用WS、花咲かせ隊、藤友会[ふじともくらぶ]、期間限定ショップ）	
記念館・公園		提言書の項目	・ワークショップの意見をもとに共通した記念館の特色を明確にし、要望や予算措置、実現までの課題など一目で分かるようにマトリックスにする。	
全体	連携事業	まとめ	・水利組合との調整、設計や展示は民間会社に委託も考える。	温井教授助言
	情報発信・連携事業・人材		・メンバー皆でインスタグラムの活用を。市民サークル主体の運営を目指す。	温井教授助言
	人材		・人材配置や運営方式を提言に盛り込む。 ・学芸員・公園アドバイザーを非常勤で雇用する。	温井教授助言

3 ワークショップの様子



専門家による講義



専門家による講義



現況視察



現況視察



グループワーク(意見交換)



グループワーク(意見交換)



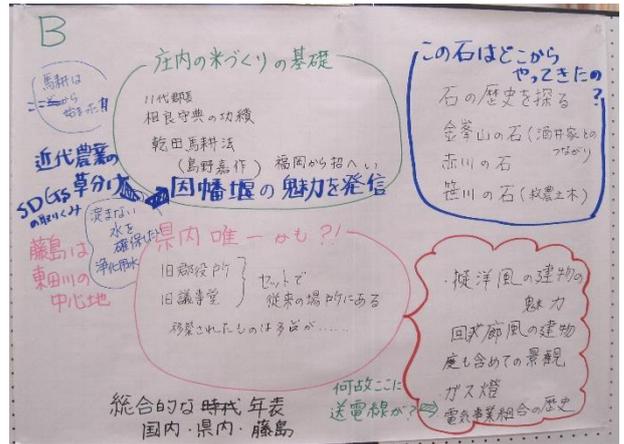
意見発表



意見発表



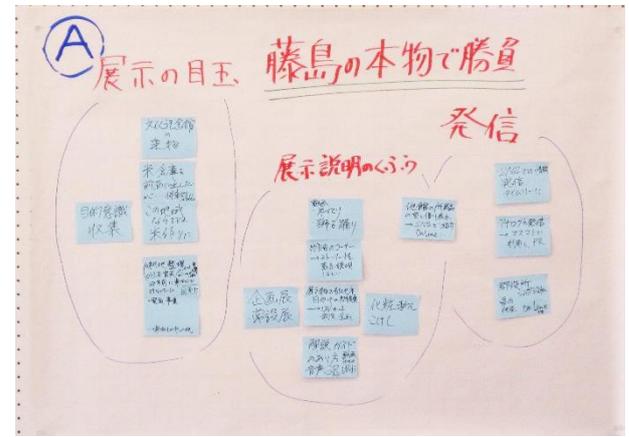
第1回グループワーク (歴史公園)



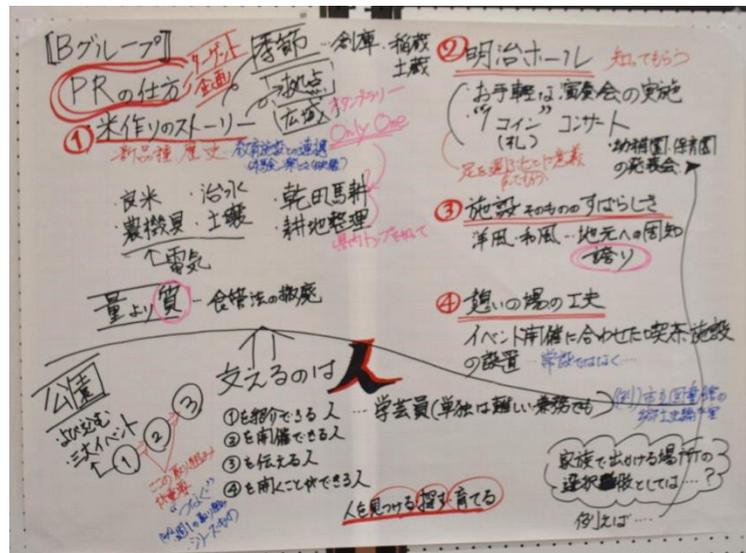
第2回グループワーク (記念館周辺の山 川 花 文化財)



第3回グループワーク (観光の視点から)



第4回グループワーク (学芸員の視点から)



第5回グループワーク (利活用のまとめ)

東田川文化記念館利活用計画

令和6(2024)年 月 日 発行

発行 鶴岡市

編集 鶴岡市藤島庁舎 総務企画課

〒999-7696 山形県鶴岡市藤島字笹花 25 番地

電話 0235-64-5814